

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動学Ⅱ		(作) 必修 (福.人) 選択	2	(作) 2 (福.人) 1.2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
久保田 茂希	講師控室	shigeki.kubota		月曜日 9:00~10:30	
授業の目的・概要	人間の動作を捉えるために、バイオメカニクス、運動生理、運動学習を中心に理解を深め、ヒトの運動や動作を的確に判断できるようになることを目的とする。また、2 年次以降の演習・実習等にて必要となる基礎的知識の習得を目的とする。教科書と毎回配布するプリントを使い授業を進める。また、知識の習得を確認するため、毎回小テストを実施する。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (小テスト)				
学習上の助言	この授業では解剖学・運動学で学んだ知識が必要となるので、解剖学・運動学の教科書や授業資料を復習しておくことが望ましい。授業で学んだ知識は使える知識となるまで反復学習（書く、読む、体を動かすなど）を行いインプットする。そして学生同士で確認や説明し合い、アウトプットの機会を多く行う。インプットとアウトプットするまでの過程を繰り返し行うことで学習効果が高まる。				
教科書	筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版 /原著：Donald A.Neumann /医歯薬出版 /2018				
参考書	標準理学療法学・作業療法学 運動学 編：伊藤元、高橋正明 出版：医学書院 リハビリテーション運動生理学 監修：玉木彰 編：解良武士 出版：メジカルビュー社 運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践 第 2 版 編著：長谷公隆 出版：医歯薬出版				
外部教材	Fundamentals of Neuroscience, Part 3: The Brain, Harvard University(HarvardX) David Cox, edX				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	頭部・体幹の筋、関節の機能と役割を説明できる。			OT (2)	
②	姿勢とその制御、歩行や走行についてその要素や相違点を説明できる。			OT (2)	
③	バイオメカニクスに関する用語を正しく理解し、適切に使用し説明できる。			OT (2)	
④	運動学習に関する用語を正しく理解し、適切に使用し説明できる。			OT (2)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 頭部・顔面の筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 11 章を読み、頭頸部の運動を確認する。	4	
2	顎関節 (咀嚼) について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 11 章を読み、顎関節 (咀嚼) について確認する。	4	
3	体軸骨格の骨・関節について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 9 章を読み、脊柱の運動を確認する。	4	
4	体軸骨格の筋と関節の相互作用について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 10 章を読み、脊柱の筋を確認する。	4	
5	胸郭の構造と換気運動について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 11 章を読み、胸郭の運動を確認する。	4	
6	バイオメカニクス① 力学の単位、運動の記載方法、運動の法則について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 4 章を読み、生体力学について確認する。	4	
7	バイオメカニクス② 関節モーメント、てこの種類について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 4 章を読み、関節モーメントについて確認する。	4	
8	姿勢と姿勢制御について学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、姿勢について確認する。	4	
9	歩行の身体運動学① 歩行周期・正常歩行について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 15 章を読み、歩行周期などについて確認する。	4	
10	歩行の身体運動学② 歩行分析(重心移動、筋活動の特徴)、異常歩行について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 15 章を読み、歩行時の筋活動の特徴について確認する。	4	
11	体力・持久力について学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、体力・持久力について確認する。	4	
12	運動生理① 運動の中樞神経機構について学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、運動時の神経機構について確認する。	4	
13	運動生理② エネルギー代謝、呼吸・循環について学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、運動時のエネルギー供給について確認する。	4	
14	運動学習理論① 運動学習の定義や意義について学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、運動学習について確認する。	4	
15	運動学習理論② 運動学習の形成の過程、アフオーダンスについて学習する。	同時双方向型授業	配布資料を読み、運動技能、アフオーダンスについて確認する。	4	
試	定期試験				

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		85	15	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	85	5	0	0	0	90	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	小テスト（14点）と定期試験（71点）を実施して評価する。授業中に使用した教科書の範囲と配布したプリントの中から基本的な内容に関して出題する。すべての領域について基本的な内容が理解され医学用語が正確に書けるかを問う。満点を71点とする。小テストは授業開始時に実施する。小テストは前回の授業内容の範囲、定期試験は全範囲とする。				試験終了後に試験についての振り返りを遠隔授業にて行い、正誤を確認する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	同時双方向授業後に課題を提示する。課題は提示資料や教科書から出題され、Teamsにて提出する。評価ポイントは期限までの提出、内容の正誤とする。				授業内にフィードバックする。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	担当教員は作業療法士として10年以上の臨床経験がある。							
実践的授業の内容	臨床での運動学の知識の活用や疾患の説明、研究結果などを加えることにより、実践的な運動学に関する知識と技術の獲得を促す。							
そ の 他	Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨する。課題ダウンロードや動画視聴などがあるため、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。小テストは授業開始時Formsにて実施するが、時間内に回答できない場合は成績に反映されるため注意すること。遠隔授業を妨げる行為をした学生は退室をしてもらう。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバス変更の可能性がある。							